

持続可能な紙利用推進への取り組み

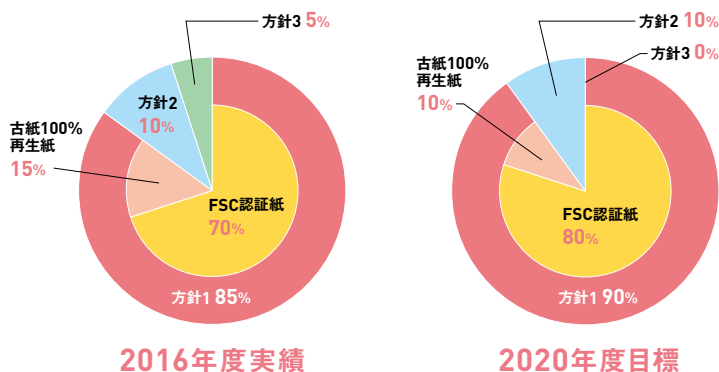
■ 自社使用における取り組み

味の素グループは、「味の素グループ 紙の環境配慮調達ガイドライン」に基づき、国内外の味の素グループで使用する事務用紙、容器・包装用紙などについて各国・地域の状況に即して取り組みを進めています。国内味の素グループにおいては、主要な紙の調達をグループ調達センターが管理しています。

国内味の素グループでは、事務用紙については間接材購買システムにより方針への適合維持を継続しています。なお、森林生態系保全や地域社会とのかかわりにおいて、NGO等から問題が指摘されている特定の製紙業者の紙が日本で流通している事例があります。これを踏まえ、味の素グループがこれらの紙を不用意に調達し問題に加担することがないように適切な措置を講じ、問題解決への進展を注視しています。

また、国内味の素グループでは2015年度から容器包装用紙へのFSC®認証紙の採用の取り組みを強化しています。容器包装用紙へのFSC®認証紙の採用は事務用紙に比べ必要とされる紙の性能などから困難な面があります。そこで「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム(CSPU)」と連携し、お取引先の製紙メーカー各社にFSC®認証取得を働きかけるなどしました。その結果、社会全体および当社の包材に使用する原紙でのFSC®認証が大きく進展し、FSC®認証紙包材の導入率も大幅に高まりました。2016年度にはギフト製品のパッケージなどでFSC®認証紙の導入が進み、約70%が切り替わるなど、積極的な導入を図りました。2017年度秋季には、「ほんだし。」や「Cook Do. きょうの大皿」といった家庭用の主力製品のパッケージにもFSC®認証マークを付与する予定であり、2020年までの具体的導入計画に基づき、引き続き、積極的な採用を進めます。

■ 容器包装用紙の実績と計画



■ 「味の素グループ 紙の環境配慮調達ガイドライン」の具体的な方針

方針1

FSC® 認証紙および古紙利用 100%の再生紙の優先調達

方針2

味の素グループが環境に配慮していると認めた紙を調達する

方針3

紙製品の原料となる木材の伐採にあたって現地における森林に関する法令に照らし、手続きが適切になされたことが確認できない紙を調達しない

※方針2の具体例：FSC®管理木材由来の紙



「FSC®認証マーク」を表示した家庭用主力製品

参照 → 特集2 P37
“森林破壊ゼロ”に向けた取り組み

参照 → 環境 P110
容器包装の環境配慮設計の推進

■ 社会連携の取り組み

日本においては、持続可能な紙の調達・利用についての社会・産業界の認識は低い状況です。そこで、味の素(株)では、自社で使用する紙の持続可能性配慮調達を進捗させるとともに、日本で責任ある紙の調達・利用が主流化されることを目指した産業界・社会への働きかけを行っています。その一環としてCSPUの活動を継続しています。



2016年7月、CSPUはサプライチェーンでの企業間連携・持続可能な紙利用の拡大を目指して、シンポジウムを開催しました。より環境や社会に配慮した紙製品を供給・調達しようとするサプライチェーンを通じた具体的な連携事例もみられるようになりました。この流れを加速するために、シンポジウムではCSPUのほか、供給側の企業、業界団体からも取り組みを紹介し、今後さらに持続可能な紙利用を拡大していくために、現状課題となっていることやその解決のために何ができるかなどについて参加者とともに議論しました。

Web →

WWF :「持続可能な紙利用のための
コンソーシアム」ファクトシート
http://www.wwf.or.jp/corp/upfiles/
20131119pcm_br.pdf

持続可能なパーム油への取り組み

■ 自社使用における取り組み

味の素グループの持続可能なパーム油への取り組みは、全体としてまだその取り組みが始まったばかりの段階にあります。様々な規格のパーム油由来原材料が食品事業、化粧品事業で使用されており、それぞれの原材料により認証油の調達の容易さは大きく異なります。特に調達により困難なパーム核油由来原材料の比率が約35%あります。また、タイ、南米といった認証油供給のサプライチェーンが未整備な国・地域での使用量が大きくなっています。この結果、2016年時点で、グループ使用量の約80%については認証油の供給体制がない、あるいは未整備という状況ですので、2016年の認証油(MB、B&C)の使用実績(率)は日本国内の使用になりますが、味の素グループ全体の約9%に達しました。

2017年の初めに、取り組み対象を日本国内から味の素グループグローバルとし、2020年度までに100%持続可能な調達を目指す目標を掲げました。なお、国・地域や事業ごとに状況が大きく異なることに即した2030年度までのロードマップも作成しました。

参照 → 特集2 P38

持続可能なパーム油調達の課題に挑む

Web →

RSP0のAnnual Communications of Progress
(ACOP : 年次報告)
https://www.rspo.org/members/1642/
Ajinomoto-Co.-Inc
※ 味の素グループの取り組み実績や計画を詳細に
報告しています

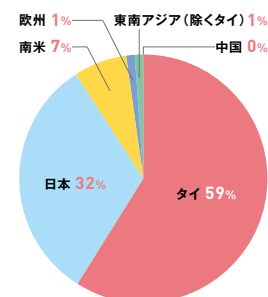
■ 味の素グループの目標

日本
2020年度を目標年とし、持続可能なパーム油へ転換する
<ul style="list-style-type: none"> ● 段階的導入を予算化 ● 供給がない原料(食品用核油)については、MB供給体制構築努力
海外
原料品目や国・地域の個別具体的な課題に即した幅広い推進策を、ステークホルダー(専門家、NGO、取引先等)との協働で検討を進める(例:トレーサビリティ確保、小規模生産者支援、社会啓発リーダーシップ等)
<ul style="list-style-type: none"> ● 取り組み進捗を、RSP0年次報告等で行う

■ 味の素グループのパーム油(パーム核油含む)の使用量

(トン/年 2016年実績)

日本	加工食品	8,200
	化成品	2,500
海外	加工食品	24,300
グループ合計		35,000



■ 社会連携の取り組み

持続可能なパーム油の調達・利用を推進するため、味の素(株)は2012年8月にRSP0に加盟し、他企業や日本の関係者との協働・連携を深めてきました。

2016年4月、The Consumer Goods Forum(CGF)主催「JAPAN DAY」では、パーム油特別セッションに食品企業代表として登壇し、呼びかけを行いました。また、CGFのワークショップの運営にも協力しています。さらに9月に開催された「RSP0ジャパン・デー2016」では、実行委員会副委員長を務めました。

今後も、持続可能なパーム油に関する日本の産業界全体の取り組みが進むよう、貢献していきます。



進捗確認はwww.rspo.orgへ